

分担研究報告書

油症患者の追跡調査

研究分担者 小野塚 大介 大阪大学大学院医学系研究科口腔内微生物制御学 特任准教授
研究協力者 中村 優子 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 看護師
辻 学 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 准教授
中原 剛士 九州大学大学院医学研究院皮膚科学 教授

研究要旨 油症認定患者の長期死亡リスクについて再評価を行うことを目的として、追跡調査を55年間に延長し、油症認定患者の生存・死亡情報をアップデートした。その結果、追跡対象者1,664名のうち、2022年12月31日時点で生存の確認ができた者が617名(37.1%)、死亡の確認ができた者が707名(42.5%)、生死の確認ができていない者が340名(20.4%)であった。

A. 研究目的

我々はこれまで、油症患者を対象とした追跡調査を実施してきた。40年間の追跡調査の結果、男性の油症患者では全がん、肺がん、肝がんの死亡リスクが一般人より高いことを明らかにした(Onozuka et al., Am J Epidemiol, 2009)。また、追跡期間を50年間に延長して死亡リスクを再評価した結果、男性の油症患者では全がんと肺がんの死亡率が高いこと、女性の油症患者では、肝がんの死亡率が高いことを明らかにした(Onozuka et al., Environ Health, 2020)。さらに、がんの50年間累積死亡率を検証した結果、男性では16.8% (95% CI: 14.5-19.5)、女性では8.8% (95% CI: 7.0-10.9)であった(Onozuka et al., Environ Int, 2021)。今後、追跡期間をさらに延長し、油症認定患者の長期死亡リスクについて検証を進めていくことが重要であると考えられる。

そこで本研究は、追跡期間を55年間に延長するとともに、油症認定患者における死亡リスクを再評価することを目的として実施した。

B. 研究方法

前回の50年間追跡調査の対象者1,664名について、行政機関、油症センター、油症相談員等の関係者から情報収集を行い、生存情報のアップデートを行った。

死亡者における死因の特定については、油症患者の名簿記録と人口動態調査(基幹統計調査)の死亡票との照合を行う必要がある。当該死亡票の使用については、これまでに厚生労働省政策統括官付参事官付審査解析室に申請を行い、承認を得ている(厚生労働省発政統0309第3号・令和2年3月9日、厚生労働省発政統1209第2号・令和2年12月9日)。なお、これまでの調査で死因が不明である油症認定患者については、厚生労働省政策統括官付参事官付審査解析室に新たに申請を行う予定である。

(倫理面への配慮)

本研究は、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会「カネミ油症の実態調査」(許可番号30-384)の審査を経て実施した。

C. 研究結果

追跡対象者 1,664 名のうち、2022 年 12 月 31 日時点で生存の確認ができた者が 617 名 (37.1%)、死亡の確認ができた者が 707 名 (42.5%)、生死の確認ができていない者が 340 名 (20.4%)であった。

ただし、これらの情報のすべてが、住民票抄本等の公文書によって確認できたものではないことから、暫定的な結果である。

D. 考察

今回、行政機関、油症センター、油症相談員等の関係者に対する調査を実施し、油症認定患者の追跡情報をアップデートした。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による感染防止の観点から、検診の実施体制が縮小していること等の影響から、油症認定患者の生存確認が十分にできていない状況である。今後も、関係者による情報収集や公的情報をもとにした生存確認を継続していく予定である。

また、死因の特定に必要な人口動態調査（基幹統計調査）の死亡票の使用については、厚生労働省審査解析室に再度申請を行う予定である。今後、死亡票の使用が許可された場合は、死因が特定されていなかった死亡患者について、死亡票と照合させることで死因の特定を行い、50 年間追跡調査以降の長期死亡リスクの解析を行う予定である。

E. 結論

油症認定患者の追跡調査を 55 年間に延長し、油症認定患者の生存・死亡情報をアップデートした。その結果、追跡対象者 1,664 名のうち、2022 年 12 月 31 日時点で生存の確認ができた者が 617 名 (37.1%)、死亡の確認ができた者が 707 名 (42.5%)、生死の確認ができていない者が 340 名 (20.4%)であった。

なお、追跡調査は継続中であり、あくまでも暫定的な結果であることから、今後も

公的情報等による追跡調査を継続するとともに、主要死因別における長期死亡リスクの再評価を進めていく予定である。

(謝辞)

本研究の実施にあたり、九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターの井上豊子氏、勝野裕子氏、渡辺直子氏、九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野の梶嶋啓子氏、油症相談員の只熊幸代氏、山根美喜子氏に多大なるご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし